問い合わせは：tochigi-campal@mainichi.co.jp

とちぎキャンパる

はじめまして！学生記者の視点で発信

学生記者が主体となってつくる「とちぎキャンパる」が、4月から栃木県版でスタートします。

先輩である「キャンパる」は、1989年2月、大学生が企画、取材、執筆する紙面として始まりました。東京本社管内の毎週金曜日夕刊で25年世紀以上休みなくとなく続いています。「開かれた新聞」を掲げる毎日新聞ならではの紙面です。

とちぎキャンパるは、今春、設置された宇都宮大学の地域デザイン科学部の学生を中心に、毎日新聞社との提携講座「地域メディア演習」の一環として取り組んでいきます。県内の地域情報を、学生記者の視点から掘り起こして、紙面で発信していこうという意欲的な試みです。

16日に初回の講義があり、今後の取材対象などについて活発な議論が行われました。

毎月第4火曜日に掲載します。

初回は、新学部設立の狙いについて、地域デザイン科学部長の塚本純教授にインタビューしました。

学生記者たちが発信する、新鮮で躍動感あふれる情報にご期待ください。

【とちぎキャンパる編集長・内山勢】

10年後 花開く人に

宇都宮大学 地域デザイン科学部 塚本学部長に聞く

宇都宮大学（石田朋靖学長、宇都宮市）に地域貢献を目的とした、文理融合型の地域デザイン科学部が4月に誕生した。地域に根ざした地方大学のあり方とは何なのか。塚本純学部長に聞いた。

【とちぎキャンパる編集長・内山勢】

つかもと・じゅん　札幌市生まれ、仙台市育ち。58歳。1986年、東北大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学。スポーツクラブ通いは20年以上。「雨酒で5％のランニング、25％のバタフライが目標です」

――新学部の狙いについて教えてください。

元々、宇都宮大学では、地域の「知の拠点」として貢献できる教育研究の結晶を作ろうという構想がありました。学部の再編で、それに対応した新しい学部を作ろうと議論していた結果が、今回の新学部です。

――新学部は、これまでの貢献とどう違うのでしょうか。

今まではどちらかと言うと、各学部の専門分野に応じて貢献してきました。例えば教育学部は、地元の学校へ、教員の再研修に対応するような機能でした。

しかし、現代には地域の課題解決に向けた思いが求められています。昨今、地域の課題解決を研究していくことも特徴があります。課題解決へ向けた取組が重要だと思っています。

――新学部は、「デザイン科学」を通じて地域に貢献します。

――新学部は文系のコミュニティと、理系の建築都市、社会基盤の三つのデザイン学科から構成されています。すごいなと思った。

都市設計のイメージが強いですが。

デザインはよくとらえると「意匠」になります。そうではなくて、たとえばものを作ったり、私たちが言うデザインはもっと幅広く、地域切りです。その迎で、理系の学生が専門の知識を知らないひとにもうまく伝える能力は重要です。ぷちにしてもら、専門だけではなく、幅広いことを知らないといけないと思います。ですから、文理融合と言ったときに、社会の縦因と横因で大学生のうちから文理融合の視点を3学科合同で学び、グループとして協働作業をしていくことは非常に意味があると思っています。

――提携講座「地域メディア演習」に求めるものは？

まずは学生たちには、社会に目を開いてもらいたいということがあります。実際に現場に行って取材を作ったり、そういう機会を作っていたいけるのはすごくありがたいことだと思っています。

もう一つは、現場でうたえること、必ずしも取材したことを見表すのと考えています。これが、新学部では地域ことです。記者はその力として、科学的基礎の上に総合的に成できれば良いと考えています。

――栃木県内で学ぶ以上、将来的には栃木で働いてほしいという希望はありますか？

私としては、地域貢献ではなくターゲットを絞っていないというと言ったらいいでしょうか。

――どういう分野の地域貢献を望んでいますか？

われわれが望んでいるのは、地域コミュニティ、建築都市、土木基礎にターゲットをしていないということです。

――地元産業界とのつながりを強くするのは、目的とした地域創成系の地方大学が育成する人材像を差別化していくのでしょう。

期待する人材像とは？

社会に出てすぐに活躍する人材というよりは、10年後、20年後に花開く人になってもらいたいと思っています。地域の課題を見つけて解決をすることではなく、問題の発見を、分野の交流から要求する、幅広いコミュニケーション能力も必要です。さらに幅広くものごとをとらえてくじけない心も必要だと思います。そのような骨太の人物となる基礎を、大学の4年間で学んでもらいたいと思っています。

新入生を歓迎するサークル勧誘でにぎわう宇都宮大学峰キャンパス

編集部から

初回講座の16日は、土曜日に開催。午前8時50分開始だに、20人を超す学生が集まりました。が義校生だった彼女は、緊張した面にみなる情熱を感じます。東本社管内夕刊のコーナーパンパるを担当することになりました。学生たちが学ぶことは多いです。栃宮大でもみんなのことをみんなから教えてもらおうと今から楽しみです。【内山勢】

言いたい！「とちぎ」と言えば？

地域メディア演習を受講している学生に聞きました。

◆ギョーザ。宇都宮駅前に餃子（ぎょうざ）像が！新鮮です　㊐

◆大谷石で作ったいろんな石像が多い。餃子像も　㊏

◆いちごのチーズケーキ。家族の間で人気です　㊏

◆レモン半乳！　でも飲んだことがないので、挑戦してみたいです　㊏

◆日光。徳川の歴史を感じられるから　㊐

◆とちぎ蔵の街。ゆるキャラのとち介をよろしく！　㊐

◆戦場ケ原や渡良瀬遊水地など星地が多い　㊐

◆出流山満願寺はさまざまな花が季節ごとに咲いています。花見の後はおそばがおいしい　㊏

学生こらむ

「新しい」4月に思う

こまつ・ともひろ　那須烏山市出身。趣味は音楽。「高校のサークルやカラオケでJ-POPなどを歌っています」

4月。日本では入学式や入社式が行われる月だ。そのため月は、新たな一年のスタートという印象が強い。無論、私も大学に入学し、新たな環境、新たな出会いに胸を躍らせているところだ。

さて、読みなおすこの月を、いかがお過ごしだろうか。心機一転、新たな目標に向かい奮闘する者、環境の変化を思う存分に楽しむ者、あるいは思ういろいろ方がいるだろう。まってやく、大学一年生になってから、この1カ月は特別に感じるろろう。

しかし、私は、この月をどうお過ごさせばいいかかえようにこしてしまった。増えた自由時間の無計画に過ごしてしまって、何事も、目標を持って計画的にやりたい！と思ったりするのだ。

とはいえ言おうが、実際、それを実行するのは容易なことではない。まして、入学したばかりだ。慣れること、卒業のことなどはまだ考えたくない。

しかし、こうした生活は存分に楽しむ者、あるいは思ろう。今後、私は計画的に過ごせるだろうか。その時が来て、自分の望ましい選択をすうる過ごしたいものだ。【宇都宮大1年・小松友広】